

和

兵庫大学・兵庫大学短期大学部 広報誌
Hyogo University Public Relations Magazine

~nagomi~



学長座談会 巻頭特集 ナンバーワンの人材養成へ

産学連携による地域活性化

vol.09

2017年6月

加古川商工会議所会頭
釜谷 和明

× 稲美町商工会会長
廣田 政文

× 播磨町商工会会長
森田 孝

× 高砂商工会議所会頭
森本 幸吉

× 兵庫大学学長
河野 真

ナンバーワンの人材養成へ

産学連携による 地域活性化

産学連携による地域活性化が注目されています。地域社会の抱える課題を解決し、未来の可能性を広げるにはどうすればいいのか。大学の役割や今後の地域経済などについて、兵庫大学の河野真学長と地元二市二町の商工会議所会頭、商工会会長に語ってもらいました。司会は兵庫大学の田端和彦副学長。



二市二町が総力を挙げて取り組み

- 加古川商工会議所会頭 釜谷 和明
- 稲美町商工会会長 廣田 政文
- 播磨町商工会会長 森田 孝
- 高砂商工会議所会頭 森本 幸吉
- 兵庫大学学長 河野 真
-
- 司会 兵庫大学副学長 田端 和彦



ニーズに合わせた情報提供

田端 各市町における経済状況や特徴について、商工会(議所)のリーダーとしての見方を教えて下さい。

釜谷 加古川市は神戸製鋼で発展してきた側面もあります。商工会議所の会員は中小の事業所がメイン。業種によりますが、今までと同じことをしていたのでは発展しにくい状況です。地域で長年やってきた信頼だけではやっていきません。商工会議所では、経営指導員が企業に向いて話を聞くなどし、ニーズに合わせた情報提供をしています。

廣田 昨年、経営発達支援計画という経済産業大臣の認定を得て、商工事業者の経営支援に軸足を置いています。商工会のテーマを「行きます 聞きます 提案します」として、経営指導員が企業に行き課題を聞き、それに対する提案をします。今年から創業支援にも力を入れていて、創業に意欲のある若い人たちを募集してセミナーを開きます。

森田 播磨町は商工業者の7割超が小規模事業者。高齢化と後継者不足で、商店街もほとんどなくなってきています。そのため町との協力は欠かせず、町にも負担してもらって商工会の建物を改装しました。きれいになり基地として人が集まるようになっており、経営支援をするインキュベーションの部屋をつくり、創業者支援の講習を開催しています。

森本 高砂市は、工業都市として栄えてきました。現在も製造粗付加価値額では全国上位です。他方、商業は大型店舗の閉店など厳しい状況が続いています。また人口減少は毎年500人以上と高く、より一

層魅力的なまちづくりに取り組まなければ未来はないと考えています。

田端 地域の特徴については。

釜谷 加古川市の場合、今年、加古川駅前に高層マンションが完成し、市民病院も移転してきました。駅周辺の人の流れは変わってきています。

廣田 稲美町は面積の4割が農地で、野菜の栽培を中心とした都市近郊農業地域でもあります。麦を使い、地元のキング醸造株式会社が麦焼酎をつくって販売し、メロンやトマトなど野菜の専業農家も元気ですね。

森田 播磨町の一番の特徴は人工島で、50社以上の企業が進出しています。ただ、どんな会社があるのか、地元の住民は知らないなので、ガイドブックを作りました。また、飲食店などを紹介するパンフレット「食べはります」「行きます」も作りました。

森本 高砂市ではまもなく待望の県道南北線拡幅工事が完了し利便性が増してきます。昨年オープンした市立図書館の利用率は高く、数年後には市庁舎も建て替え予定です。商工会議所も産業、都市、会議所のイノベーション推進を掲げ、未来志向で構造改革に取り組んでいます。

プラス面を伸ばしマイナス面を埋める

田端 大学としては二市二町をどうとらえていますか。

河野 人口規模の割に自然豊かで文化、歴史遺産もあります。住民所得が高く、経済的には豊かな人が多いのかなと思います。マイナス面は、

神戸と姫路の間にあって埋没しやすいことですね。また、市民をつなぐNPOなど新しい市民セクターの形成は遅れています。全体としては人口が減っているので、人材不足は大きなテーマです。「兵庫のゆたかさ指標」を見ると、兵庫県平均を上回るプラス面では、地元や県内でとれた農林水産物を買っている▽子育てがしやすい▽企業に活気がある———などです。遅れているのは、ボランティア活動▽災害訓練などに参加▽公共交通が便利▽地域の「宝」がある▽商売、事業を新たに始めやすい———など。プラス面を伸ばしてマイナス面を埋める努力が必要です。

実学的な講座を増やす

田端 地域経済が抱える課題と解決策について、どう取り組んでいますか。

森本 観光産業は中小企業比率が高く、当地域は資源にも恵まれているので二市二町で連携して取り組めれば活性化に繋がると思います。また、起業支援や次世代インフラ整備など前向きな努力により未来が開けると思います。

廣田 稲美町では昨年に続き今年もトマトグルメフェアを開催します。今年は阪神地域からバスツアーを募集し、トマト、メロンなどを栽培している農場を見学してもらい、トマトを使った料理を出す店を回ったり、JAの農産物直売所で野菜を買ったりするツアーを始めます。

釜谷 空き店舗であったところに、若い人の飲食店出店が増えていま

す。観光については、二市二町で一緒にやるのが大事。中小の事業所が人を新たに募集しても集まりにくい。定年退職した人は元気なので、再雇用することを考えてもいいのではないのでしょうか。

河野 大学では地域住民を対象にした公開講座「エクステンション・カレッジ」を開催していて、主として年配の方が受講しています。文化、教養などが人気講座ですが、今後、若者を含め、キャリアを磨くための実学的な講座も増やしていきたいなと思います。リタイアした人も対象として講座をデザインしていきたいです。

釜谷 技術を継承していくことが大事だと思うので、リタイアされた人が教える立場になるのは大事なことだと思います。

河野 匠講座のようなものですね。

釜谷 観光も大切ですが、この地域に遊びに来てもらうより、住んでもらう地域にできればいい。そうすると、働く場所、企業が必要になります。企業としては、簿記の資格を持つなど即戦力になる人材が必要です。兵庫大学でもそのような講座に取り組んでいただきたいと思います。

廣田 今後労働人口が減っていく中で、世の中から定年制をなくせばどうかと思っています。昔は65歳や70歳になったらゆっくりしようかなと思っていましたが、今の心境としては死ぬまで現役でいようかなと(笑)。

森田 介護でも幼稚園でも、一番の人が欲しいですね。すごいなあ、この人の世話になりたいなという人材を兵庫大学につくってほしいです。

森本 この地域が通過点ではなくとどまってもらうためには、二市二町が総力を挙げて取り組んだ方がいいと思います。二市二町まちごと兵



釜谷和明 加古川商工会議所会頭 廣田政文 稲美町商工会会長 森田孝 播磨町商工会会長 森本幸吉 高砂商工会議所会頭 河野真 兵庫大学学長

地域の観光資源を発掘

田端 兵庫大学がその資産を活かし、地域のビジネスパーソンとの協働により未来を開く可能性について提案をお願いします。

河野 大学の資産は学生です。学生は若い感性を持ちパワーがあるので、参画するだけで雰囲気が変わります。実際に学生が参画している事業としては、「牛(ギユ)・ギョットとパン」の開発やトマトを使った商品開発があり、地元商店街の空き店舗を活用した「かつめしLABO」のような取り組みを空き家対策の中に組み込めば、地域の名産を外部にアピールできます。連携協定を結んでいる韓国・釜山の大学と共同で地域の観光についてリサーチしたら、我々と外国人が見る観光資源は必ずしも一致しませんでした。我々がおいしいと思うグルメと外国人がおいしいと思うのはちょっと異なっています。学生や教員が、地域の観光資源を発掘して、あるものをどうアピールするかを考えることもできます。本学には成長産業である医療や福祉、健康に関して専門の学科があり、研究実績もあります。社員のストレスを低減するなどメンタル、フィジカルにアプローチしていくことなどは可能です。

まちごと兵庫大学に

田端 兵庫大学からの提案を含め、意見を聞かせて下さい。

庫大学として、各市町に新学部を設立して、知の創造をしながら取り組むと、地域も大学も活性化できると思います。

大学が接着剤の役割を

田端 大学として、地域から働きかけてほしいことはありますか。

河野 実践型人材養成について言えば、我々が受けてきたような大学教育ではなくて、能動的な学び、自分から課題を設定して解決するような力を身につけなければなりません。地域や企業の人たちにもまれながら、実践的な能力養成をする必要があります。このたび設置した現代ビジネス学部は、まさにそれを教育の手法の柱としています。いわゆる使える人材を養成しよう。なおかつ使える能力というのは、卒業後、職業人となってバージョンアップできるような下地で、学生のうちに身につかせようとしています。あと、ナンバーワンの学生の養成と同時に人間力が大切です。人間として輝けるような人材を養成したいと思います。大学には海外の経験が豊富な教員もおりますし、海外との事業提携や海外の人を顧客に取り込む方法などについては、教員が協力できる面もあると思います。

田端 一緒にできることはたくさんあると確認させていただきました。二市二町でできることがあるのではないかとという意見もあり、その接着剤の役割を兵庫大学が果たせればと思います。

地域に開かれた大学 より密度の濃い地域連携をめざして

東播磨地域二市二町との連携協定強化

兵庫大学・兵庫大学短期大学部 副学長(研究、社会連携担当) 附属総合科学研究所長 / 兵庫大学エクステンション・カレッジ長 教授 専門: 地域政策、地域経済

田端 和彦

社会的に弱い立場にある人々をも含め、市民一人ひとりを社会(地域社会)の一員として取り込み、支え合う。これまで国家が担ってきたこの役割を、現在担うのは地域であると言われます。地方創生が差し迫った社会的課題となるなかで、兵庫大学は東播磨地域の自治体との連携協定のほか、種々の団体・企業などとの連携を年々強化してきました。連携の現状や、学生、研究者、地域にとってのメリットなどについて、社会連携を担当する田端和彦副学長にインタビューしました。

—大学はどのような形で地域を支えていくのでしょうか？

田端 まず、地域の知的基盤としての大学の役割について申し上げます。播磨地域は現在、課題が山積している地域ではありませんが、課題が顕在化していないだけとも言えます。

例えば、沿岸地域に大きな工業地帯があるのに、十分な災害対策が講じられているとはいえません。津波についても、身近で大きな被害がないため対策がとられていないのが現状です。また、工業地域であるゆえに派遣労働者も少なく、表には出ていませんが社会的な問題も抱えています。そういった問題を研究できることは、兵庫大学の研究者にとっては魅力です。同時に、地域の課題に対して知識があり、グローバルな視点をもって情報発信ができる知的資源としての大学は、地域にとって得がたい

ものだと考えます。

—具体的な支援の取り組みは？

田端 例えば、加古川市と共催でピアカウンセリング講座を開催しています。ピアカウンセリングとは精神障害を抱えた方が退院後に地域で生活する際に、同じ経験がある当事者が社会復帰を後押しすることですが、兵庫大学はその普及を後押ししています。また、深刻な保育士不足に悩む明石市で、現地のNPOからの依頼を受け、潜在保育士の職場復帰を支援しています。

平成24年から始まった「熟議」も、参加者が地域の課題を「熟慮」し、解決策を「議論」する場として定着しました。今は、これから社会に出ていく高校生が、地域についてのアイデンティティをもっていてほしいという思いから、高校生にターゲットを広げて展開しています。

看護、保育、福祉、健康、ビジネスの領域に強い兵庫大学は、地域の仕事づくり 保育、教育、商店街の活性化、社会的包摂などに対応できる能力を持っています。本学に対し地域からの依頼が絶えない理由も、この点にあります。

—学生にとって、地域で学ぶメリットは？

田端 看護、介護など高度な専門職が地域で求められる時代ですから、地域で学ぶ機会があるのは学生には有利なことです。また、工業生産が高当該地域は、財政的にみても比較的豊かなので、経済的に厳しい状況におかれている学生への支援も可能だと思います。

現在、最低限の家賃で空き家に学生を住ませるといったプランを、空き家対策に悩む自治体に提案しているところです。

—地方創成に果たす学生の役割は？

田端 学生は地方創生の起爆剤です。人口減少社会の中で学生は希少財化しており、地域にとってみれば学生がやってくることで大きな力なのです。高砂市や加古川市のお祭りなどには、イベントスタッフとして学生が多く参加していますが、こういった交流の機会は今後さらに増えてくるでしょう。

さらに、学生の専門性を生かしたボランティアも地域にとっての大きなメリットです。保育科の学生が稲美町の学童保育をサポートしている例、看護学科の学生が加古川マラソンなどの救護スタッフを務めている例などがあり、大きな期待が寄せられているところです。

連携協定締結状況(平成29年4月現在)

- 行政 加古川市 / 高砂市 / 稲美町
- 経済団体 加古川商工会議所 / 高砂商工会議所 稲美町商工会 / 播磨町商工会
- 公益法人、社会福祉法人、NPO法人など シミズシース(加古川市) 兵庫県生きがい創造協会(兵庫県) 日の出医療福祉グループ(加古川市) はりま福祉会せりょう園(加古川市)
- 企業 ASハリマアルピオン株式会社(姫路市)
- 教育 兵庫県立東播磨高等学校

共通教育機構

現代の教養教育のあるべき姿を探究し続ける

共通教育機構は、本学の教養教育はどうあるべきか、どんな人間を育てたいのかを議論し、その結果に基づいて科目を実施していく機関として1年前に誕生。従来は各学部・学科の代表を中心として、それぞれの専門教育との関係から科目の設定を実施していましたが、今後は、共通教育機構が全学的責任をもって教養教育を創り上げていきます。その基本的な考え方と具体的な内容について、北島律之機構長と掘り下げていきます。

●共通教育機構長/学修基盤センター長
教授 専門：認知心理学 北島 律之



共生力、思考力を養うために

本学の教育の根幹は、共生力、思考力、実践力の養成にあります。この基本ポリシーと共通教育の関係について、北島機構長は「共通教育機構は共生力、思考力の育成を中心にカリキュラムを組んでいます。共生力は本学の建学の精神である和の精神ともつながり、専門教育が担う実践力の基盤となります。また思考力は実践家として社会に出た時、臨機応変に判断するために必要な力です」と語ります。

時代、学生の変化に即した9科目群、新科目

平成28年度から、教養教育科目は9つの

科目群(短大は5つ)に分類されました。9科目群は「建学の精神」「コミュニケーション」「国際理解」など、それぞれ特色あるテーマを掲げています。そのなかで、今年度は新たに8科目を設定。以下、特徴的な科目を紹介します。

「建学の精神」の科目群に、各学科教員によるオムニバス講義『兵庫大学の学びと和』が開設されました。「具体的事例を通じ、本学の基本理念である和の精神と各学科の学びとの結びつきを明らかにする科目です。これで建学の精神と現代社会、専門科目とのつながりが分かりやすく伝わればと考えています」

また新科目ではありませんが「コミュニケーション」科目群の中の『日本語』は内容をリニューアルしていきます。

「今の学生はネット、スマホの影響で短い文章に慣れているが、まとまった論理的な文章を書いたり読んだりする機会は少なく、レポートや授業などでも論理的な展開は苦手になっています。専門教育の基盤となるような日本語学習をめざし、現在も内容の吟味を進めているところです」

さらに『コンピュータグラフィックスの基礎』という新科目が誕生。「ワード等の使い方を指南する入門的なコンピュータ演習は今までもありましたが、何かと表現する機会が多い今の時代に、それだけでは不足です。最近、保育園や幼稚園の先生方がパワーポイントやCGを使って華やかに発表する機会も増えました。新科目は現場の要望に応え、仕事で使えるCGを教える実践的な内容になります。期待してほしいですね」

共通教育の新しい流れとしては、理系科目が強化されたことが挙げられます。

「現象やデータをもとに客観的に考える力を育てたい」との考えから、「自然と科学」科目群に『身のまわりの科学』を設置しています。

これからが本当のスタート

共生力、思考力を育むという共通教育機構の考え方が、1年経ってようやく各学科に浸透しつつあります。最後に、機構の「これから」について北島機構長にまとめてもらいました。

「私たちは責任の重さを感じながら、今後も各学科とのコミュニケーションに努め、専門科目とのバランスを図りながら教養教育の一層の充実を図っていきます。重要なことは、身につけた教養が専門教育の中に、さらに卒業後の人間力として、どのように生かされるか。実践に結びつくための基盤を提供することが、今後の使命です」



栄養マネジメント学科 ASハリマアルビオンと連携協定締結

地域を舞台に、ともに成長しよう!

スポーツ・食育コースの学生が、女子サッカー選手を栄養面からサポート

- ASハリマアルビオン株式会社 代表取締役社長 岸田 直美
- 栄養マネジメント学科 准教授 専門：代謝生理学 佐藤 隆
- 栄養マネジメント学科 講師 専門：栄養教育 応用栄養 曲木 美枝

栄養マネジメント学科にスポーツ・食育コースが誕生するのを機に、本学はサッカー女子なでしこリーグ2部の「ASハリマアルビオン」(本拠地：姫路市)に対して連携を呼びかけ、昨年12月に教育、スポーツ分野での連携協定を締結しました。学生たちによるアルビオン選手の栄養・食事指導や健康管理が始動します。

学生の夢の実現につながる連携

ASハリマアルビオンの岸田直美社長は「兵庫大学さんから選手たちの栄養状態を科学的に調査研究したいというお話をいただき、まさに渡りに船だと思いました。うちは専任栄養士をつけるほどの規模のチームではありませんが、選手の食生活の改善は絶対に必要」と言い、「大学が選手の健康状態をサポートしてくれるのは嬉しい」と連携の効果に期待を寄せています。

一方栄養マネジメント学科の佐藤 隆准教授は、「コース制を設定したのは、学生に将来を見据えた考えをもってもらうため。スポーツ・食育コースには、スポーツに関わる管理栄養士になり

たいという夢をもっている学生が集まります。アルビオンさんとの提携を通じ、将来を考える機会を提供できればと思います」と、学生の夢の実現につながる連携事業であることを強調しました。

将来ビジョン、社会の厳しさに触れる機会

ASハリマアルビオンにとって、連携のメリットとして第一に考えられるのは、全国から集まった選手たちの身体を内側から強くして、選手生命の維持をはかること。「それ以外にも、彼女たちが引退し、セカンドキャリアへの道を開拓する際の支えにもなると思う。『こんな勉強もあるのか。将来こんな資格をとってみたい』という学びを身近に感じてほしい」(岸田社長)。

一方、栄養マネジメント学科の曲木講師は「アルビオンの皆さんはプロで活躍する選手。こちらもちょうど準備していないと、プロ相手に指導はできない。学生にとっては逃げられない環境になる」と指摘します。「あらかじめ現場の厳しさを知っておいた方が、将来現場に出た時に現実とのミスマッチを起こしにくいと思います」。



若い力がつながって生まれる新しい可能性

大学との連携は、アルビオンの選手たちにもさまざまな反響を巻き起こしています。「大学さんといっしょに活動する中で、選手たちから『遠征に行く前に食べる元気が出るアスリート弁当を考案してもらいたい』という声が上がりました」と岸田社長。考案してもらった弁当をホームゲームで売ってほしいという意見も出ているという。地元の食品会社との共同開発も夢ではありません。

曲木講師の「兵庫大学の栄養マネジメント学科には食品の生産・販売について学ぶ食品コースもあります。学生たちがアルビオンさんと協力して楽しいお弁当が作れたらいいですね」との言葉に、「地域の皆さんにコラボ弁当を提案できたら、学生たちもうれしいでしょう」と佐藤准教授もうなずきました。

クラブチーム、大学が連携して、新しい可能性を追究する。地域を元気にするアイデアが、選手や学生たちの若い力から生まれ出すことでしょう。

科学的アプローチで 独自開発の腹部圧迫法を検証

即効性のある便秘解消法の普及に向けた取り組み

●看護学部 看護学科 教授 専門：基礎看護学
宮島 多映子

【研究テーマ】Miyajima式腹部圧迫法の臨床応用—安全性と有効性の評価—



一般的な腹部マッサージ法と異なり、独自の手法による「Miyajima式腹部圧迫法」は、便秘の解消に即効性があることで注目されています。開発者である宮島多映子教授(看護学科)に、開発までの経緯や効果、学会での反響、今後の研究課題などについて語っていただきました。

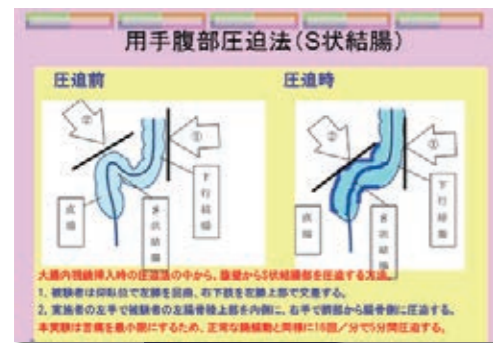
—Miyajima式腹部圧迫法には、どのような特徴がありますか？

Miyajima式腹部圧迫法では、患者さんは仰向けになって左ひざを曲げ、右を上にして足を組みます。そして大腸の終わり、肛門につながるS状結腸から直腸の部分を規則正しく圧迫することによって、便の排出を促します。

この方法の特徴は、即時性にあります。便秘を解消するために薬を服用しても、腸に作用するには時間がかかりますが、この方法なら腸のぜん動と同じ速さで1分間に16回、5分間押し続けるだけです。

—この方法を確立した経緯は？

これは大腸の内視鏡検査の際、カメラを腸内に送り込むために使



われている方法と同じものです。以前勤めていた病院が内視鏡検査に力を入れており、そこで腹部の圧迫により排便が起きるという事例を経験しました。

しかし後に大学院に進学し、この研究で博士論文を書こうとした時、この圧迫法で排便促進が進むという臨床データが少なく、指導教授は首をかじげ、これでは学位論文は難しいと言われました。それでも応援、協力はしてくださったので、あきらめずに研究を進めるうちに、日本看護科学学会誌で原著論文として掲載されたのです。その時学会の方から「この圧迫法に何か名前を付けてください」と言われ、自分の名前を付けたのが「Miyajima式腹部圧迫法」の始まりです。

—科学的な臨床実験を行っているそうですね。

学会で認められ、科学研究費をいただくようになって、この研究もようやく日の目を見るようになりました。その後は臨床に応用するために、医薬品開発と同じ、厳密な実験方法を採用して研究を進めています。

腸でぜん動運動が起きたかどうかは、腸音の波形解析により評価します。その他にはCASという便秘評価尺度を使ったり、被験者の感想を聞いたりということも行っており、データを集めているところです。今後はさまざまな人々との交流を通じ、この方法を看護の臨床にもっと普及させていきたいと考えています。

—企業との共同開発、異分野との共同研究にも熱心ですね。

研究を進めるうちに、もっと多くの知識を取り入れたいと思うようになり、物理学や数学、工学の知識、社会学などの知識をどん欲に吸収しました。その結果、企業や他領域研究者とのコラボレーションに興味をもつようになり、例えば高齢者のためのトレーニング用イスと運動プログラムの開発、マスメディアの抱く看護師像の研究など、いろいろな活動を行っています。

—最後に、研究者、教育者としての想いを。

看護は人間を対象とする以上、全ての学問を学び、活用することが必要ですが、現状では、まだ学問を活用しきれいていません。これからはもっと、看護師自らが現場で考えたことを理論的にまとめ、世に出していくことが大事なのではないかと、私は思っています。まずは私自身が研究、実践活動を通じてネットワークを広げるとともに、看護師が幅広く活躍する応援をしていきたいと思っています。

教科横断的な視点で 教育における音楽と 造形の融合をめざす

研究者、教育者、演奏家という
3つの顔を持ち、実践的な芸術活動を展開

●短期大学部保育科 准教授 専門：音楽教育・ピアノ
井上 朋子
【研究テーマ】
小学校における総合芸術教育テキストの開発



ピアニストでもある井上朋子准教授(保育科)が現在の研究を始めたのは、小学生の前でムソルグスキー作曲「展覧会の絵」を弾き、絵を描いてもらった経験がきっかけ。子どもたちが暗い音楽には暗い色で、雄大な部分になると、高みに上っていくイメージで描いてくれたことに興味をもち、研究に取り組むようになりました。



ソフィアフィルハーモニーとの共演(2016年7月) Photo: V.Balevska

海外の教科書は貴重な研究資料



—現在進めている活動は？

「感覚をつないでひらく芸術教育を考える会」という研究会を9年前に作り、同じ志の人々と音楽と造形を融合させた教育を進める研究を続けています。小学校の「音楽」と「図画工作」という2つの教科をつなぐテキストを作れないかと考えているところです。

—音楽と造形を融合させる意味は？

音楽では歌う、演奏する、聴く、図工では作る、描く、見る活動が中心ですが、異なる芸術領域の関連性を重視するアメリカの教科書には、「交響曲を聴きながら、音の高低に合わせて絵を描いてみよう」「絵の中のパターンを見つけ、次に音楽の中のパターンを見つけよう」など、音楽と図工の両方にまたがる課題が多く見られます。

一方、これまでの日本には総合的な芸術教育を系統的に学習できるプログラムがありませんでした。私はさまざまな表現の世界があることを子どもたちに伝え、諸感覚をひらき、結びつけ、大いに働かせながら学ぶことで子どもの感性を育てたいと考えています。

—ピアニストとしても活躍中ですが、視覚イメージの演奏への影響を。

最近は演奏活動の機会も増えてきました。昨年7月のソフィアフィルとのブルガリアでの共演に続き、今年4月にはピリシム弦楽四重奏団とジョージアで演奏しました。音楽や造形の関連性や五感について研究しているうちに、感性も磨かれてきました。楽譜から色や情景、におい、気持ちをイメージしたり、人の演奏を聴いて、そこから想像したりするなかで、音世界に対する新しい視野が開かれるように感じます。

—教育者としての活動について教えてください。

去年は、音楽・動き・言葉の融合を提唱したカール・オルフの名を冠する教育・研究機関、オルフ研究所(ザルツブルグ)を視察し、授業に参加しました。現地の学生たちが総合的な芸術教育を学び、その学びを発揮できる場として、子どもたちと長期間交流しながら保育実習を行っていたのが印象的でした。

今春から大学で『保育内容・表現』という科目を受け持つことになりました。テーマは五感を使った表現です。感性豊かな子どもたちを育成するには、保育者自身が感性を磨く必要があると思います。五感をひらき、さまざまな表現活動を体験しながら、豊かな感性と表現力を身につけてもらいたいです。

前人未到の領域に挑戦する喜びが研究の牽引力
健康に貢献
知られざる機能を発掘し、
ウコン属植物の



しかし、昔から言われている作用の全てをクルクミンで説明することには無理があるように思います。また、実はクルクミンがほとんど含まれていないウコン属植物もあります。そのようなことから、ウコンにはクルクミン以外にも有用成分が含まれているのではないかと考えています。

——ウコン属にはどんな種類が？

ウコンというの是一般名で、日本で多く流通しているのは秋ウコンです。他に春ウコン、クスリウコン、紫ウコンがあり、紫ウコンはガジュツとも言われています。このなかでクルクミンが多いのは秋ウコンです。一方、漢方にも使われているガジュツにはクルクミンがほとんど含まれていません。

——どのような研究を進めているのですか？

私はものを食べたときの糖質の消化、吸収を穏やかにするとともに、体内に入った糖が活発に代謝するのを助けるような物質を探し求めるうちに、ウコンの研究にたどり着きました。最近では、街中で売られている特定保健用食品にも糖代謝を活発にする効能をうたったものがありますが、私は一般の食品の中から対象を見出し、糖代謝をよくする成分が含まれているのかを調べてきました。その中でウコン属植物の抗糖尿病効果、抗肥満作用に着目し、今研究をしているところです。実験の結果、同じウコン属でも、種類により糖質分解酵素に対する阻害作用が異なっていることが確かめられました。

——研究の進捗と、今後の見通しは？

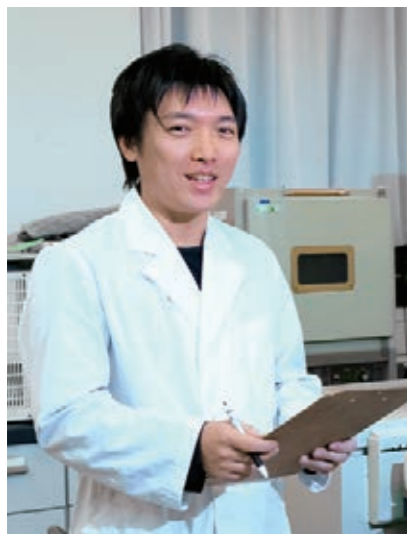
今後の目標は、活性成分を明らかにすることです。そうすることで「ウコンは病気に効く」の科学的根拠を確固としたものにできます。

また化合物の構造を決定することができれば、その化合物を基に薬を開発することも可能になってきます。創薬分野への応用という観点からも、活性成分の同定が重要だと思います。

——最後に、研究ポリシーと教員としての思いを。

私の研究は体にいい作用があるか、ないかを探るものです。仮に効果がないということが判明すれば、その成果は世に出ることもありません。でも、だからこそ結果に対しては誠実でなければなりません。ないものもある、と言ってはならないと、私はいつも頭に置いて実験しています。

また、今年から大学で『管理栄養士概論』『生化学実験』という2つの科目を担当しています。授業には責任を感じますね。下調べや内容の再確認をしっかりと行うので、教えることは自分にとってもいい勉強になります。



●栄養マネジメント学科講師 専門：食品機能化学
 山崎 一諒（本学健康学部栄養マネジメント学科）
 （平成18年卒業）
 【研究テーマ】
 ウコン属植物の機能性に関する基礎的研究

日々の食生活を通じて生活習慣病の予防や改善をという思いから、ウコンの有用成分に関する研究を進めている山崎一諒講師（栄養マネジメント学科）が、まだ知られていないウコンの有用性や、研究のおもしろさ、可能性などについて語ります。

——研究対象としてのウコンのおもしろさは？

ウコン属植物がさまざまな病気に効くというようなことが、民間伝統療法ではよく言われています。ところが研究論文を検索してみると、何の病気にどのような効果があるのかというところまで明らかにしたものはありません。

ウコンの有用成分として、一般にはクルクミンという物質が有名です。

頼れる
保健室の先生で
あり続けたい

健康システム学科を卒業し、兵庫県西宮市の小学校で養護教諭として活躍する江端智世さん。現在の仕事ぶりや、養護教諭を目指したきっかけ、スポーツを学び、スポーツに打ち込んだ在学中の思い出などを語っていただきました。



後輩たちには強い気持ちを持って夢を叶えてほしいです。諦めなければ叶うと思うんです。

江端（旧姓・福田）智世さん

健康科学部 健康システム学科第3期生。
 2007年同学科を卒業後、講師の経験を経て、2010年4月から西宮市の小学校で養護教諭として勤める。

子どもに接しつつ、
デスクワークもこなす

養護教諭といえば、「保健室の先生」として子どもたちに親しまれ、慕われる存在。職場は多忙で、例えば新学期は4月から始まる健康診断に備え、資料、プリント類の作成や会場整備に追われます。「保健だよりも作らねばならないので、子どもに対応する時以外はパソコンに向かっています」と、デスクワークも多い毎日です。

「以前に勤めていた小学校には2人の養護教諭が配置されていましたが、今の職場では私一人。けが人や体調不良の児童が増える時期は、てんやわんやです。一人を病院に連れて行く間、教頭や校長先生に応援を頼むこともあるほどです」

子どもたち一人ひとりに
寄り添って

児童への対応で大切なことは、子どもの心理を理解し、その子自身の問題を受け止めることだと江端さんは考えています。「教室に行きたがらず保健室によく来る子には、まず登校できたことをほめてあげます。保健室は、教室に行くまでの第一歩。教室に行くようには言わず、子どもが自然に行きたくなるのを待ちます」。

担任の先生と異なり、さまざまな学年の児童たちと接する養護教諭。児童たちの成長に合わせて、細やかに対応を変えていきます。「1、2年生は難しいことが表現できませんし、理解できないので、易しい言葉を選んで話します。また相手の目線に合わせて、しゃがんで話すのが基本です。一方、高学年の児童に対しては子ども扱いをしないよう心がけています」。

1歳半のお子さんがある江端さんは、現在育児休暇中。それでもときどき勤務先の様子を聞きに保健室を訪れます。「職場が家に近いので、自然と足を向けてしまいます。代わりにがんばってくださっている先生に子どもたちの近況を聞くのが楽しみです」。

復帰後は、養護教諭としてだけでなく、親の立場として子どもたちに接することができるのではないかと考えています。「保護者のみなさんとも、共感をもって話し合えるのではないかと思います」。出産を経験し、小学校の子どもたちへの愛情が以

前より深くなったと感じています。



高校時代の憧れを仕事に

養護教諭をめざしたきっかけは、高校時代の部活動でした。「ハンドボール部でしたが、けがが多かったので、保健室の先生にはお世話になりました。その頃に自分の中で『保健の先生=頼れる存在』という憧れイメージができてきたようでした。やがて将来の道としてめざすようになり、養護教諭の免許が取得できる大学を探しました。「健康システム学科なら養護教諭一種の免許がとれるし、好きなスポーツについて学べるのがいい」と進学を決めました」。

クラブ顧問の先生の優しさを
今も胸に

大学では多様なスポーツを体験し、指導法も学びました。所属したクラブはラグビー&タッチフットボール部。「ラグビー&タッチフットボールという名前ですが、タッチフットボールが主で、ラグビーとは異なり、タックルをしない親しみやすいスポーツ。夏には遠征があって、全国の大学生、社会人チームの人達といろいろな話ができました。大学時代は授業もクラブも、すべてが楽しかったですね」。

高校と大学との違いは、先生との距離。それまで遠い存在だった先生が、大学ではとても近く感じられました。

「卒業の時、授業でもお世話になった顧問の矢野塚也先生が、クラブ生一人ひとりにメッセージカードを贈ってくれました。私のカードには『涙』という文字が。部活中、嬉しいにつけ、悔しいにつけ、ぼろぼろ泣いていたのを見て下さっていたのです」。このカードは今も江端さんの机に飾ってあります。

グローバル グローバルビジネス専攻が本格始動

視点を世界に向け、地域に学ぶ学生たち

企業や地域がグローバル化への対応を模索する中、発信力、コミュニケーション力を身につけ、国際化時代に対応できる人材を育成することは、現代ビジネス学部の重要な使命です。2年目を迎えた現代ビジネス学部の中でも、国際交流に積極的に取り組むグローバルビジネス専攻の学びについて、澤山明宏現代ビジネス学科長と3人の学生に聞きました。



澤山明宏学科長



鼻岡 廉人さん



杉岡千佳さん



ディザイラメイさん

ふくらむ留学への期待

グローバルビジネス専攻の学生たちは、2年次での約1ヶ月間の短期語学留学が必修。また、希望すれば3年次の中・長期留学も可能です。「留学は、異文化をダイレクトに体験するいいチャンス」と語る澤山学科長。「留学後は、みんな変わりますよ。英語から逃げ腰だった学生も、海外の人たちと話したいと言うようになります。留学は今後の挑戦へのジャンプ台です」。

留学先はニュージーランドのワイカト大学、ハワイのパシフィック大学など北米、オセアニア、アジアなど多地域に及んでいます。未知の世界への好奇心は高まる一方で、「現地に行き、文化の違いを体験してみたい」(杉岡)、「日本には人が決めたことに従えば楽だという考え方があるが、本当にそれでいいのかを考えてみたい」(鼻岡)。留学先では自分の思いが伝わらず、悩むこともあるかもしれません。しかし、「コミュニケーションの困難さに直面することで、学生は大きく成長する」と澤山学科長は期待を寄せています。

サマーキャンプで身近な国際交流

また、学部では国際体験の一環として毎年タイ、韓国、アメリカの海外協定校から学生を受け

入れるサマーキャンプを実施しています。サマーキャンプは海外の短期留学生に日本文化を学んでもらうことが主眼。しかし、せっかくの機会なので、全学部生に対し、交流に参加するよう呼びかけています。学生たちは、「留学生に日本の文化を伝えるのは大事なこと。けん玉を教えた時は、すごく盛り上がりました」(メイ)、「一緒に姫路城に行き、喜んでもらえました」(杉岡)、「海外の人たちを受け入れることの大切さを実感しました」(鼻岡)など各自の経験を語ります。身近な国際交流の機会も、今後ますます増えていく予定です。

留学体験を生かして活発なゼミ活動を

グローバル専攻のゼミは、留学を経験した後、3年次からスタート。「2年次までの経験を生かし、さらなる異文化交流に挑戦してもらいます。ゼミは社会に出るための準備と位置づけ、実学的な色彩の強い活動をとを考えています」。商社での勤務経験をもつ澤山学科長は、「私のネットワークを駆使して、海外ビジネス経験者と交流する機会を増やしていくつもりです」。

さまざまなグローバル体験プログラムの充実が進む中、学生たちは「日本の歴史が好きな海外の人が増えている。そんな人々とのコミュニケーションの機会を増やしていきたい」(鼻岡)、

- 現代ビジネス学部現代ビジネス学科長
専門：国際経済・経営
澤山 明宏
- 現代ビジネス学部現代ビジネス学科
グローバルビジネス専攻2年生
鼻岡 廉人(明石南高等学校出身)
- 現代ビジネス学部現代ビジネス学科
地域ビジネス専攻2年生
杉岡 千佳(兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校出身)
- 現代ビジネス学部現代ビジネス学科
グローバルビジネス専攻2年生
ディザイラ メイ(農業高等学校出身)

「貿易に興味がある。起業家になって、日本の人が当たり前に使っている便利な、いいものを母国のフィリピンで広めたい」(メイ)、「実家がある淡路島では、訪日観光客が増えている。私は地域ビジネス専攻の学生だが、企業活動を学びながら、国際化に対応できるよう英語も身につけたい」(杉岡)など、これからの学生生活に大きな期待を抱いています。



サマーキャンプにて

吹奏楽部

**部員みんなが支え合って
見事なハーモニーを創る！**

強化指定クラブとして活躍が期待されている吹奏楽部。中学・高校での吹奏楽の成果を評価する吹奏楽推薦入試を導入していることもあって、実力のある部員が集まっています。コンクールや演奏会に向けての学生たちの奮闘ぶりや、学業との両立などについて紹介します。

高校の吹奏楽部との違いは 学生主体であること

部長の河口聖奈さんは、中学時代からブラスバンドに打ち込み、吹奏楽推薦入試で入学した一人。中学、高校でも部の幹部を務めてきましたが、「大学の吹奏楽部は、顧問の先生がリードしてくれる高校までの部活とは、運営が完全に学生主体だという点が全然違います。人数が少ないこともありませんが、部員みんなが役割を分担し、個人としての責任をもってがんばっています」。

二人の専門家のアドバイスのもと 曲の完成に向けて練習が続く

部の常任指揮者は、京都フィルハーモニー室内合奏団のトランペット奏者だった御堂拓巳先生。週に1回ほど合奏のレッスンを受け、音のピッチや音量など全体的なバランスをみてもらっています。「新しい曲に取り組むとき、いきなり合わせてもバラバラになるので、最初はみっちり個人練習します。ある程度できるようになったらパート練習、セクション練習と進め、最後に曲の完成度を高めるために合奏のレッスンをお願いしています」。

また、龍谷大吹奏楽部常任指揮者の若林義人先生にも、定期演奏会やコンクール前などに音楽面でのアドバイスを受けています。

コンクールや演奏会で 日頃のがんばりが試される

河口さんはクラリネット奏者。思い出に残る演奏会は「一つは、初めての定期演奏会で先輩の代わりに急ぎょクラリネットの第1パートを吹いたこと。大変だったけど、何とかやり遂げました。もう一つはクラリネット4人で出場したアンサンブルコンテ

●生涯福祉学部
子ども福祉学科4年生
河口 聖奈
(高砂南高等学校出身)



スト。普段と異なりメロディー以外のパートも弾かねばならず、みんなで試行錯誤しながら音楽を作り上げました。コンクールと演奏会の違いは「コンクールでは、いかに評価される演奏をするか。細かいところまで合わせないと上位入賞はできないので、気を使います。一方演奏会では、いかに幅広い年代の方に楽しんでいただけるプログラム構成にするかが大切。曲目を自分たちで選び、アドバイザーの若林先生に相談しながら決めていきます。毎年2月に開催される定期演奏会は、地域の人々の楽しみともなっています」。

学業も部活も自然に 将来につながっていく

現在、子ども福祉学科の4年生の河口さん。保育士と子ども音楽療育士の資格を取得して、卒業後は児童養護施設で働くことを希望しています。「ゼミでの課題研究は、手作りの楽器を通して子どもに音を出す楽しさを体験してもらおうこと。紙の皿でタンバリンを作るなど、身近な材料を使って楽器を作っています。吹奏楽部で学んだことも、研究課題として発表できるようにしたいと語る河口さんに、学業と部活を両立させねばという気負いはなさそうです」。

クラブ活動実績

- ・2014年 第42回兵庫県アンサンブルコンテスト銀賞
- ・2015年 第62回兵庫県吹奏楽コンクール銀賞／アンサンブル・フェスひょうご2015in加東 加東文化振興財団賞受賞
- ・2016年 第63回兵庫県吹奏楽コンクール銅賞
- ・2017年 第44回兵庫県アンサンブルコンテスト銅賞

※2012年から定期演奏会を開催

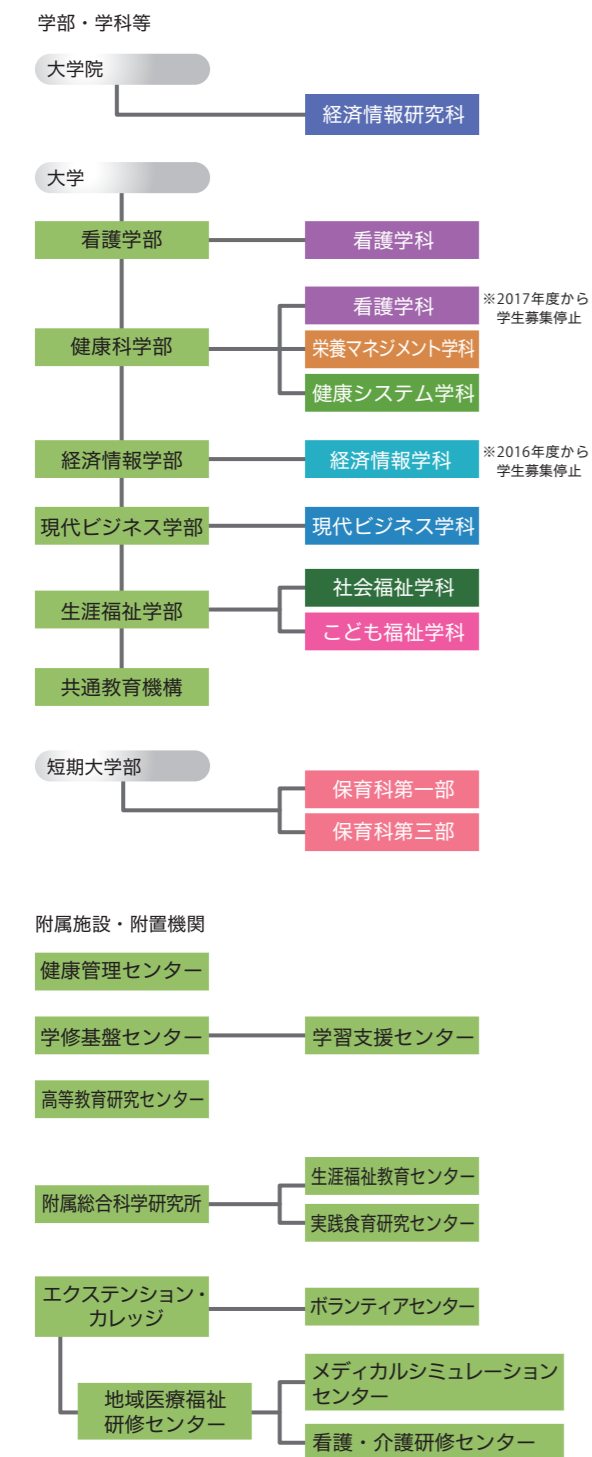


定期演奏会

●兵庫大学 兵庫大学短期大学部

設置者	学校法人 陸学園	建学の精神  聖徳太子の御徳を慕い、その十七条憲法に示された「和」を根本の精神として仰ぎ、仏教主義に基づく情操教育を行い、有為の人材を養成します。 ※本学は浄土真宗本願寺派(西本願寺)の宗門関係学校です。
設置年	兵庫大学 1995(平成7)年 兵庫大学短期大学部 1955(昭和30)年	
理事長	渡邊 東	
学長	河野 真	
校地・校舎面積	(校地面積)91,513㎡ (校舎面積) 40,313㎡	
蔵書数	143,830冊	

●兵庫大学・兵庫大学短期大学部教育研究組織



●取得可能な資格 ※★は国家試験受験資格 ☆は受験資格

大学院	経済情報研究科	・高等学校教諭専修免許状「情報」 (高等学校教諭一種免許状「情報」の取得が必要)
大学	看護学科	・看護師★ ・保健師★ ・養護教諭一種免許状 ※保健師課程は選択制です。
	栄養マネジメント学科	・管理栄養士★ ・栄養士免許 ・栄養教諭一種免許状 ・食品衛生管理者 ・食品衛生監視員 ・フードスペシャリスト☆
	健康システム学科	・養護教諭一種免許状 ・中学校・高等学校教諭一種免許状「保健体育」 ・中学校・高等学校教諭一種免許状「保健」 ・健康運動指導士☆ ・健康運動実践指導者☆ ・初級障がい者スポーツ指導員 ・ジュニアスポーツ指導員☆ ・社会福祉主事任用資格 ・第一種衛生管理者
	経済情報学科	・高等学校教諭一種免許状「情報」 ・高等学校教諭一種免許状「公民」 ・高等学校教諭一種免許状「商業」
	現代ビジネス学科	・高等学校教諭一種免許状「公民」「商業」 ・上級秘書士 ・上級秘書士「国際秘書」 ・上級ビジネス実務士 ・上級ビジネス実務士「国際ビジネス」 ・上級情報処理士
短期大学部	保育科第一部	・社会福祉士★ ・精神保健福祉士★ ・高等学校教諭一種免許状「福祉」 ・社会福祉主事任用資格 ・児童指導員任用資格 ・福祉レクリエーション・ワーカー
	保育科第三部	・幼稚園教諭一種免許状 ・保育士資格 ・こども音楽療育士 ・児童厚生一級指導員 ・社会福祉主事任用資格

データで見る

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

●学生数 (単位：人)

大学		男	女	計
大学院	経済情報研究科	0	0	0
看護学部	看護学科	15	95	110
健康科学部	看護学科	49	282	331
	栄養マネジメント学科	48	183	231
経済情報学部	経済情報学科	51	11	62
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	46	25	71
	社会福祉学科	34	53	87
生涯福祉学部	こども福祉学科	44	134	178
	大学計	370	854	1,224
短期大学部		男	女	計
保育科	第一部	11	184	195
	第三部	6	246	252
短期大学部計		17	430	447
大学・短期大学部合計		387	1,284	1,671

●卒業生数 (単位：人)

	合計
大学(大学院含)	4,511
短期大学部(専攻科含)	30,424
大学・短期大学部合計	34,935

●専任教員数 (単位：人)

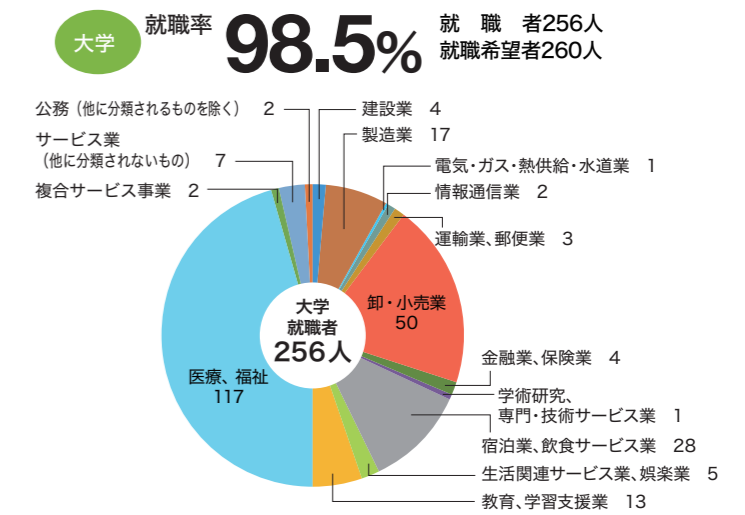
大学		教授	准教授	講師	助教	助手	計
看護学部	看護学科	13	2	11	1	7	34
健康科学部	栄養マネジメント学科	5	5	4	1	4	19
	健康システム学科	5	5	0	1	0	11
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	10	5	2	0	0	17
生涯福祉学部	社会福祉学科	4	4	0	0	0	8
	こども福祉学科	4	5	0	0	0	9
共通教育機構		3	5	2	0	0	10
高等教育研究センター		1	0	1	0	0	2
大学計		45	31	20	3	11	110
短期大学部		教授	准教授	講師	助教	助手	計
保育科第一部・第三部		6	4	9	0	0	19
短期大学部計		6	4	9	0	0	19
大学・短期大学部合計(職位別)		51	35	29	3	11	
大学・短期大学部合計(総数)							129

※健康科学部看護学科は看護学部看護学科の教員が兼務。
 ※経済情報学部経済情報学科は現代ビジネス学部現代ビジネス学科の教員が兼務。

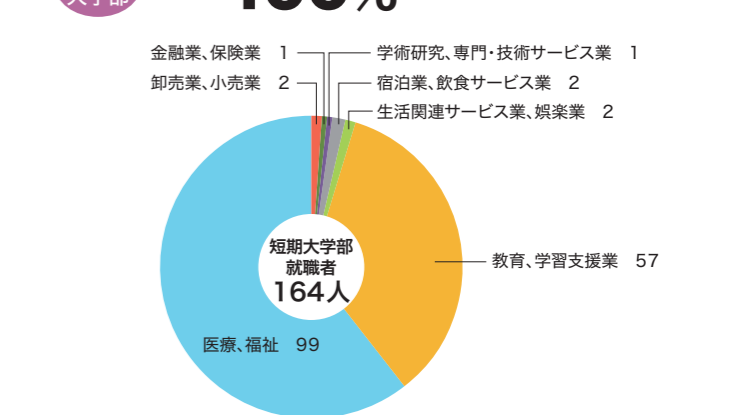
●専任事務職員数 (単位：人)

大学・短大共通	62
---------	----

●平成28年度卒業生 就職状況 (単位：人)



●短期大学部 就職率 **100%** 就職者164人 就職希望者164人



●地域別就職状況 (単位：人)

地域	就職者数
北海道	2
千葉県	1
東京都	27
神奈川県	2
福井県	1
長野県	1
岐阜県	1
静岡県	1
愛知県	5
京都府	6
大阪府	35
兵庫県	323
鳥取県	1
岡山県	5
広島県	3
愛媛県	3
高知県	1
福岡県	2
合計	420

●兵庫県内内訳 (単位：人)

市町村	就職者数
神戸市	77
加古川市	55
姫路市	50
明石市	42
たつの市	10
三木市	10
高砂市	9
小野市	8
伊丹市	7
尼崎市	6
加東市	6
赤穂市	5
加古郡播磨町	5
その他	33
合計	323

※14・15ページ掲載データは全て2017(平成29)年5月1日現在のものです。

施設紹介

兵庫大学高等教育研究センター

2016年4月1日、兵庫大学は研究、教育、社会的サービスの三位一体性の充実を模索し遂行するために、高等教育研究センター(センター長 有本章)を開設しました。主な活動は次のとおりです。



3号館

専用サイト <http://www.hyogo-dai.ac.jp/research/higher-edu/>
問合せ先 079-427-9822

■各種セミナー

大学内外の研究者・高等教育関係者を招待し、様々なセミナー(講演会・WS等)を行います。

●講演会(年2回)

ニーズに合った講師をお招きして、最新の情報を提供して参ります。

●協議会開催(年1回)

高等教育を主軸に大学内外と連携し、更なる高等教育の向上を目指します。

●研究会(不定期)

研究員に他大学訪問等の情報を発表して頂きます。

■研究

他大学より、客員研究員をお招きし、本大学専任研究員、併任研究員と力を合わせ研究して参ります。*研究員集会開催(年1回)

■出版

●「兵庫高等教育紀要」(年1回)

●「HU高等教育研究センター ニュースレター」(年2回)

●「全国高等教育研究所等協議会Newsletter」(年1回)

●本学教員の近刊図書●

●大学教育再生とは何か

——大学教授職の日米比較(高等教育シリーズ172)

兵庫大学高等教育研究センター 有本章
玉川大学出版部/単著 2016年11月

中世の大学から近代の大学に至る歴史に学びつつ、米国と比較した日本の大学や大学教授職の現状と課題を社会的に分析する。教育、研究、社会サービスの三者の調和に成功した米国の大学に対し、立ち遅れた日本の大学はいかに再出発できるのか。長年、高等教育研究に携わってきた著者による、21世紀の大学への提言。



「タグライン」を策定しました

本学が掲げる教育理念やビジョンを、より多くの方に知っていただきたいという想いから「タグライン」を策定しました。今後幅広い場面において積極的に活用して参ります。

ありがとうございますのプロフェッショナルへ。

～「タグライン」に込める想い～

「ありがとう」に

あふれる人生を送ってほしい、
それが私たちの願いです。

あらゆることに感謝の念を抱きながら、
仕事をさせていただくこと。

他者にここを寄せ、

おたがいに認め合い大切にしようこと。

そして、他者とおたがいに譲りあい、助けあうこと。

すると、やがてあなた自身が

「ありがとう」という感謝の言葉を
いただくことができる専門家となります。

それこそが、私たちが目標とする

“ありがとうございますのプロフェッショナル”なのです。

私たちはあなたの一生を支える力を育みます。

生きる力に変わる学びを、あなたに。



(使用イメージ)



平成28年度大学機関別 認証評価結果について

兵庫大学並びに兵庫短期大学部は、平成28年度において、財団法人日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、平成29年3月7日付けで同機構が定める大学評価基準を満たしていることが認定されました。

本学は、今回の認証評価結果と同機構からいただいたご意見を真摯に受け止め、教育研究、学生支援及び管理運営等の質的向上のため、これからも建学の精神に基づいた改革と改善に努め、高等教育機関としての社会的使命を果たして参ります。

読者アンケートの お願い

今後のよりよい広報誌づくりのため、次のアンケートフォームより皆さまのご意見をお聞かせください。

https://www.hyogo-dai.ac.jp/guide/inquiry/_aform023.php



編集後記

取材に立ち会い、地域の方々の本学へ寄せる大きな期待と本学教職員の方々の「学生の為に!」という気概を感じました。16ページの紙面を通して、そんな雰囲気をお伝えできれば嬉しいです。(K)



表紙「和」

学園創設者 河野 厳想 書

「以和為貴 篤敬三寶※1」から一字引用

※1 「和を以て貴とし、篤く三宝を敬え」十七
条憲法には和を大切に、三宝を敬うようにあります。
三宝は仏教における仏(覚者)、法(教え)、僧(仏と法を
大切にする人)の三つの宝です。